

## 2011 年 CAVOK ヨーロッパ航海 (Lisbon ~ Corsica)

### 2011/5/17(火) 晴後曇り雨 Sines 泊り

夜中前線の影響で雷が鳴る。雨も時折強く降る。

朝起きると晴れ間が出てきていつもの日射が強いが乾燥した爽やかな天気になる。

午前中、藤巻さんは町に。13:15 にヴァスコ・ダ・ガマ像の前に集合しておいしそうなレストランを探し、昼食を摂る。ポルトガルではライスがついている料理は間違いなく我々に合うので Monkfish (アンコウの一種) Rice を頼む。トマト味のおじや風で 2 人前を 4 人で分ける。その他、海老のガーリックグリル、ベークドチーズ、ニンニク漬オリブを冷えた地元の "スパーボック" ビールと微発泡ワイン、ヴェノ・ベルデで頂く。これも大当りで大満足。

帰りに食料の買物をして帰る。この辺りはスキューバダイビングの盛んなところで、ダイビングショップに道具が沢山おいてあるので潜水 3 点セットを購入する。早速、それを使い海岸まで泳ぐ。ポルトガルで初めてトップレスを拝見した。少しラッキーだった。

夜は、魚が続いたのでステーキとする。前回の肉より良かったがカスカエスのステーキには遥か及ばなかった。明日は、早朝出港予定なので、早めに就寝。

### 2011/5/18(水) 雨後曇り

朝 5:30 起床、6 時出港を予定していたが、雨が強く出港を取止めて朝寝坊とした。

暇になったので柴崎、藤巻両氏は自転車で街を散策。

私は床板を剥して水漏れを探求。清水タンクからの漏れでなく、ビルジに配管されているドレイン・パイプからの水であることが判明、ウォーター・プレシャをかけるとドレインが出ることを突止めた。メカのいるところで見ってもらうことにする。

お昼は炭焼きレストランで鰯と鰹の炭焼を食べる。鰯、鰹それぞれ 1 人前を 4 人で分ける。それでも十分な量だ。岩塩をかけて焼いてあり、身も新鮮で満足。つけ足しのジャガイモもホカホカで美味しかった。ここではジャガイモが大変美味しい。夕暮れ時にジントニックを楽しんだ。夜はポルトガル名物干ダラをジャガイモと玉葱でソテーにして食べる。初めて干ダラを塩抜きして食べたが良い味であった。

### 2011/5/19(木) 晴れ/曇り一時雨 Sines ~ Lagos 0630/2045 85NM

朝 5:30 起床、外はまだ暗い。6:00 出港東北東の風 4 ~ 5 m 06:28 日の出

06:50 風が 6 ~ 7 m にアップしてきたのでフルセールで 77NM 先のラゴスに向ける。うねりがあるが後からなので助かる。その後、風は後から吹いているが 6 ~ 7 m 位でこの船では 5 KT 位しか出ない。今日は距離が長いので機帆走とセーリングの交互となる。

サグレス岬の手前で 5 kg は優にあるメジマグロを 2 本揚げる。紀州仕掛けが釣果を挙げている。曳釣りする方にはお勧めです。



17:25 サグレス岬を通過。サン・ヴィセンテ岬からサグレス岬にかけての絶壁を見ながらフルセールで走る。

サグレス岬から約 15NM 先のラゴスに 20:45 に到着。

ここは運河の中にあるマリナーで、入口に跳橋があり 19:00 以降は動かないので、手前にあるレセプションポンツーンに舫いをとる。オフィスも閉まっているので手続は明日にする。早速、今日の釣果を刺身にしたが脂がのっていてトロ味であった。これから地中海に入ってクロマグロになるだろうと思った。皆さん大満足で約 15 時間の航海をねぎらった。



#### 2011/5/20(金) 快晴一時曇り

朝 9 時からマリナーオフィスが開くので、それに合せて起きて手続をする。ここでもパスコントローラーがいて全員のパスポートを調べた。

いつものようにシャワールーム、ポンツーンの出入口用の磁気カードを受取り。

跳橋を通過して所定のポンツーンに舫い、朝食とする。朝食はづけにした昨日のメジマグロでお茶漬を快晴のもとデッキで食べる。マリナーはレストラン、バーが立並び、大勢の観光客が来ている。

清水の水漏れの修理をここの業者に頼んだら、幸いのこと本日来てくれることになった。オーストラリア人で、世界を 2 周した男で、ここにきて働き始めて、10 日だそうだ。船をよく知

っていて愉快的な男で、船が大好きだそう。ビルジポンプのフィルターも掃除してくれた。工賃40ユーロだった。

お昼は奴隷市場、要塞、エンリケ航海王子を葬っている教会を見て歩く。白を基調とした街並がきれいであった。ここは歴史ある町で紀元前350年位から地中海、大西洋貿易で栄えたそう。夕方よりサグレス岬にバスで出かける。エンリケ航海王子が航海学校を作ったところで、ユーラシア大陸の南西の果て、そそり立つ崖壁の上、荒涼とした大地の上にある。



此処の要塞から大西洋、サン・ヴィセンテ岬を眺めると未知の大海を目指した航海者達の気持がわかる。8時過ぎに船に帰り、昨日のメジマグロをタタキ風にして食べる。これで3食連続でメジマグロを楽しんだ。

2011年5月21日(土) 快晴 Lagos~Vilamoura 1030/1610 30NM

今日は帆走距離が短いので、ゆっくりとし10:30に出港する。当初、風がなく機走になるが1時過ぎから南の風が吹き出したので帆走に移る。アビームでの帆走になったのでジェネカーを揚げ5KTの速度で静かな海面を気持よく走る。太陽海岸といわれるアルガルヴェ地方の景色を見ながら青い空、青い海の中、至福を味わう。お昼は生ハムのサンドウィッチとピクルスをビールで、デザートはリンゴを嚙る。ピラモウラスの入口の灯台が海岸線に突出た堤防に赤白、青白の縞模様で色鮮やかに立っていた。カスカエスからマリーナが充実していてここピラモウラスもレセプションバースがあり、そこに着けてからマリーナオフィスで手続をして指示されたバースで舫うのでわかり易く、助かる。

16:10に舫い、まずはマリーナの周りを散策する。ここはヨーロッパの大リゾート地で豪華モーターボートがところ狭しと係留しており、周りはショッピング、レストランと並び、その後には数軒のホテル、マンションが立並んでいる。



今晚はメジマグロが続いたので、カスカエスのヒレスステーキの再現を期待してレストランに行ったがカスカエスのステーキには遥か及ばなかった。もうここでは夏でヨーロッパ各地からの海水浴客で賑わっている。レストランで英国人女性7人のグループと親しくエールの交換をした。船に戻り、コックピットでジントニックを呑みながら2時近く迄呑んでいたが、マリーナはまだ賑やかであった。